

2024年度上期実績

2024年11月14日

本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有する有価証券の時価の下落、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループの国内外におけるビジネス戦略が奏功しないリスク、提携・出資・買収および買収後の経営統合が奏功しないリスク等です。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。

為替レート（月末TTM）

	23/9末	24/3末	24/9末
1ドル	149.58円	151.33円	142.82円
1ユーロ	157.99円	163.24円	159.53円
（期中平均レート）			
1ドル	141.07円	144.59円	152.78円
1ユーロ	153.46円	156.76円	166.06円

本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ （持株会社）
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス&リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
三井住友DS	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital
SMICC	SMFG India Credit Company
主要現地法人	SMBCバンクインターナショナル、 SMBCバンクEU、三井住友銀行（中国）
連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
BC単体	三井住友銀行単体
経費（BC単体）	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益
リテール事業部門（RT）	国内の個人向けビジネス
ホールセール事業部門（WS）	国内の法人向けビジネス
グローバル事業部門（GB）	海外ビジネス
市場事業部門（GM）	市場関連ビジネス

- 1 好調な本業と株式等損益の上振れにより、
連結粗利益・連結業務純益・親会社株主純利益のすべてで **上期の過去最高益を更新**
親会社株主純利益は、通期予想を **1兆1,600億円に上方修正 (+1,000億円)**
- 2 業績予想の上方修正を受けて、**株主還元を強化**
 - 配当：1株あたり配当予想を110円⇒**120円に引き上げ (配当性向40%)**
 - 自己株取得：**1,500億円の追加実施**を決定 (**通期合計2,500億円**)
- 3 政策保有株式削減の現行計画 (3カ年△2,000億円) を1.5年で前倒し達成
新計画は「**24-28年度の5カ年で△6,000億円削減**」に設定

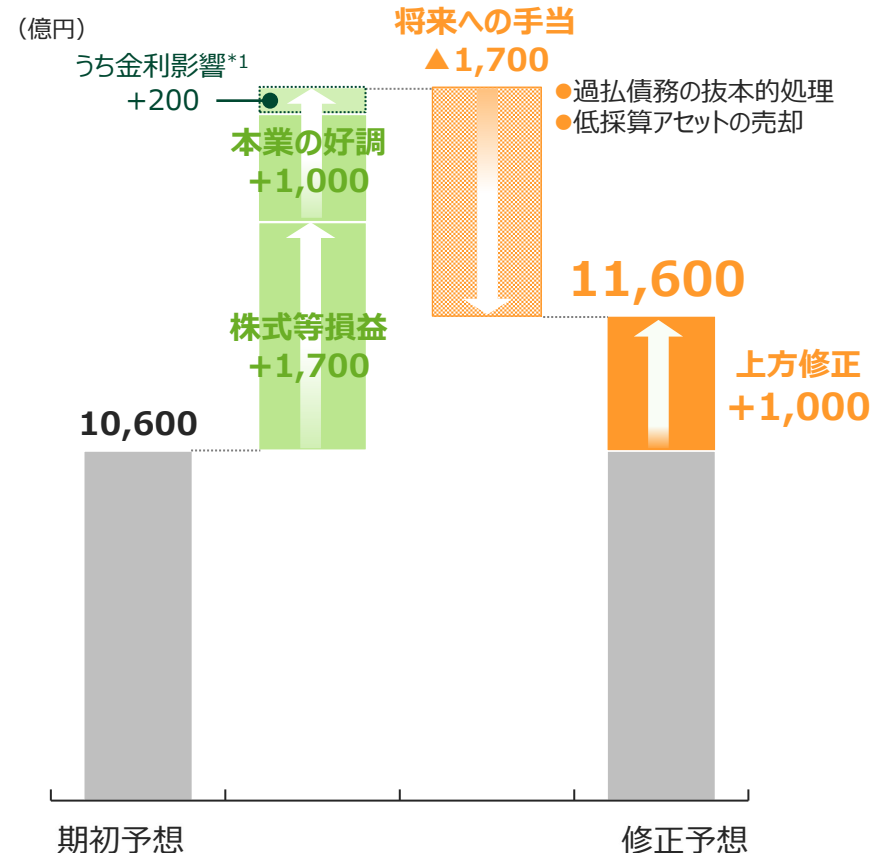
決算ハイライト ① 上期実績・通期業績予想

親会社株主純利益の通期予想を、11,600億円に上方修正（+1,000億円）

本業の好調と株式等損益による上振れを見込む一方で、将来の収益力向上に向けた抜本的な手当も実施

(億円)	24年度上期		24年度通期	
	実績	前年同期比	修正目標	期初目標比
連結粗利益	20,453	+2,279	-	-
営業経費	▲11,727	▲905	-	-
連結業務純益 進捗率 57%	9,182	+1,473	16,200	-
与信関係費用	▲839	△164	▲2,600	-
経常利益	10,305	+3,212	17,100	+1,500
親会社株主純利益 68%	7,252	+1,987	11,600	+1,000
東証ROE	9.8%	+1.8%	-	-

親会社株主純利益／上方修正内訳



*1 政策金利の前提を日本0.1%⇒0.25%、米国5.0%⇒4.0%に見直し（為替前提1ドル=140円は不変）

決算ハイライト ②株主還元

業績予想の上方修正+1,000億円は、概ね株主還元に向け
 配当予想は配当性向40%に基づき120円/株に増配、自己株取得は追加で1,500億円を実施

株主還元の強化

配当

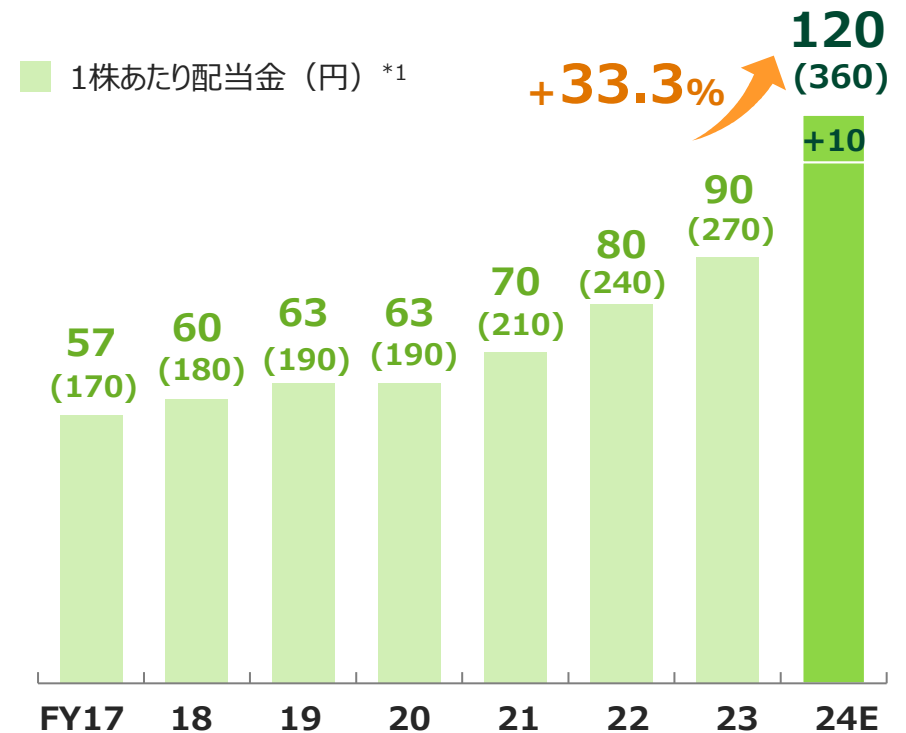
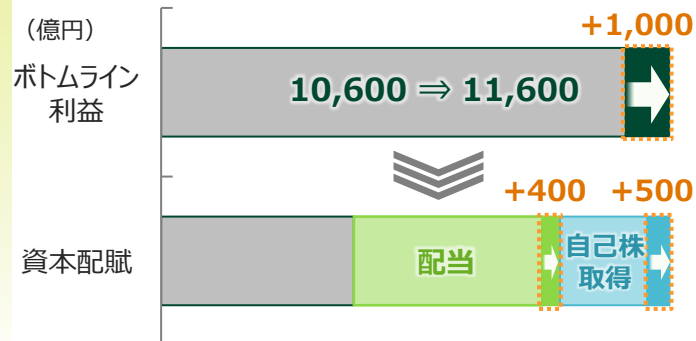
期初想定比：+400億円

- 上方修正を踏まえて、1株あたり配当予想を110円⇒120円に引上げ（配当性向40%）
- 前年比+30円は過去最大の増配幅、増配率では+33.3%

自己株取得

期初想定比：+500億円

- 上方修正と余剰資本の状況を踏まえて、追加で1,500億円の自己株取得を決定（期初は、上期・下期ともに1,000億円ずつを想定）
- 通期2,500億円は、過去最高額

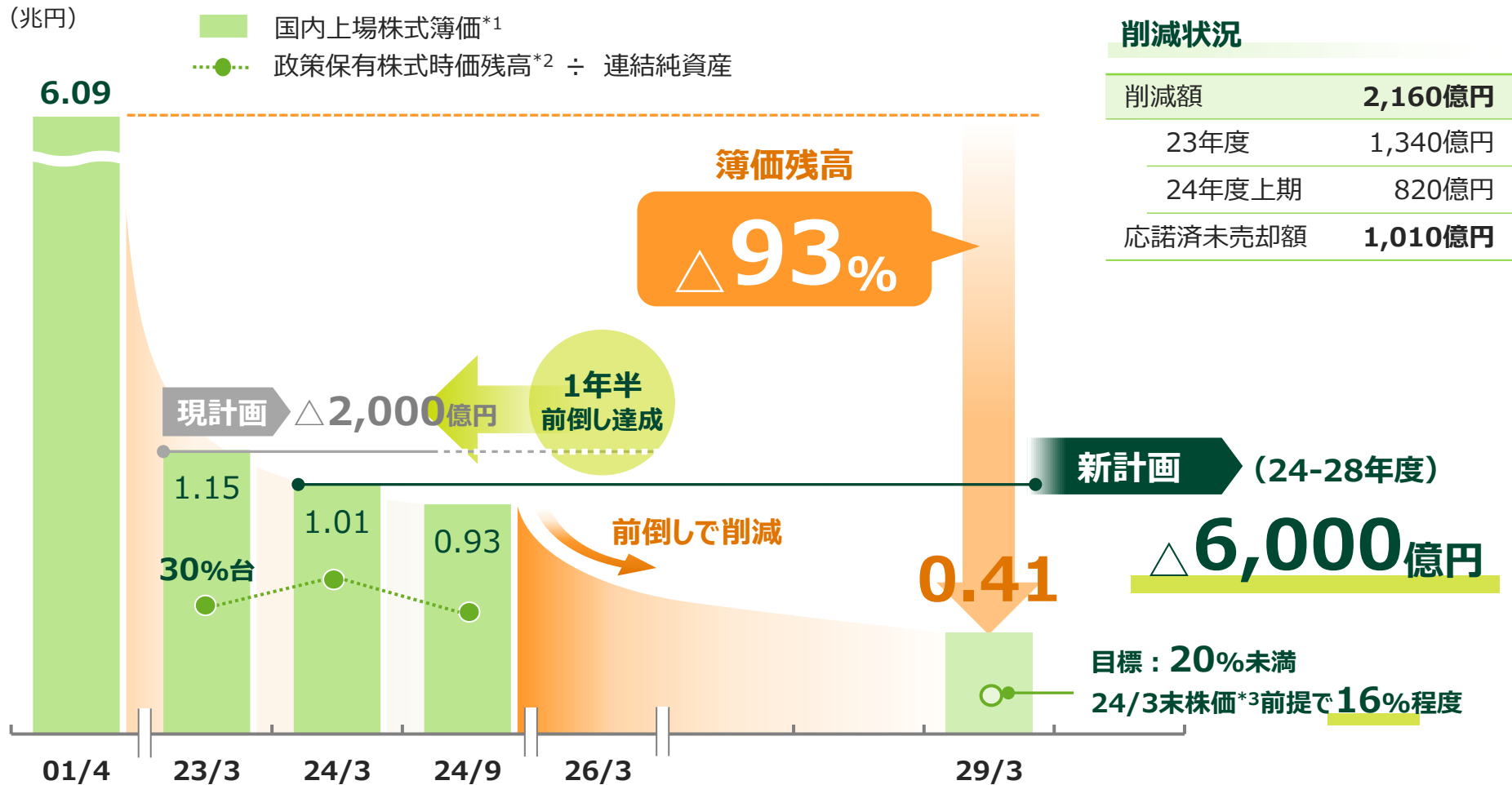


自己株取得（億円）	-	700	1,000	-	-	1,387	2,113	2,500
【参考】総還元性向（%）	33	44	51	51	41	58	59	62

*1 2024年10月1日付で実施した株式分割（3分割）を踏まえ、過去に遡り調整した金額（小数点以下は四捨五入）
 カッコ内は分割前の1株当たり配当金

決算ハイライト ③政策保有株式の削減

現行の3カ年計画は1.5年で前倒し達成、新計画は「24-28年度の5カ年で△6,000億円削減」に設定
簿価残高はSMBC設立時から累積9割超の削減、純資産に占める時価残高目標も達成見込み



*1 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く *2 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む
*3 24/3末の日経平均株価@40,369円

	(億円)	24年度 上期	前年 同期比	24年度 修正目標
1 連結粗利益		20,453	+2,279	
2 営業経費 (経費率)		▲11,727 57.3%	▲905 △2.2%	
3 持分法投資損益		457	+99	
4 連結業務純益		9,182	+1,473	16,200
5 与信関係費用		▲839	△164	▲2,600
6 株式等損益		2,942	+2,474	
7 その他		▲981	▲899	
8 経常利益		10,305	+3,212	17,100
9 特別損益		▲31	▲2	
10 税コスト		▲2,976	▲1,198	
11 親会社株主純利益		7,252	+1,987	11,600
12 東証基準ROE		9.8%	+1.8%	
13 株主資本ROE		13.3%	+3.3%	

- **連結粗利益**（為替影響:+260）
国内外における預貸金収益の増加に加え、資産運用・決済ファイナンスビジネスの好調、国内ホールセールビジネスの手数料収入増加等により増益
- **営業経費**（為替影響:▲130）
インフレ影響（▲230）や、SMCC・SMBC日興等の売上連動費増（▲400）により増加
一方、連結粗利益の増加により、経費率は大幅に改善
- **持分法投資損益**（為替影響なし）
SMBCACの航空機リースビジネスの好調（+60）に加え、VPBank・RCBCの持分法適用会社化（+30）等により増加
- **与信関係費用**
OTO/SOF連結化や海外銀行現法の業容拡大による増加はあるも、SMBCのコスト発生が低位にとどまったことから減少
- **株式等損益**
政策保有株式の削減加速によって売却益が増加（2,790、YoY+2,180）
- **その他**
過払債務に対する抜本的処理として、利息返還損失引当金を一括計上（▲990）

(参考) 主要グループ会社の業績

SMBC

	(億円)	24年度 上期	前年 同期比	24年度 修正目標
1 業務粗利益		11,618	+2,664	
2 うち資金利益		8,635	+3,357	
3 うち投資信託解約損益		579	+532	
4 国内		4,091	+1,113	
5 海外		4,543	+2,244	
6 うち役務取引等利益		2,561	+245	
7 国内		1,137	+18	
8 海外		1,424	+227	
9 うち特定取引利益+その他業務利益		407	▲940	
10 うち国債等債券損益		68	+70	
11 経費		▲5,198	▲383	
12 業務純益		6,420	+2,281	10,200
13 与信関係費用		△196	△298	▲450
14 株式等損益		2,761	+2,355	
15 その他臨時損益		270	+202	
16 当期純利益		7,281	+3,824	10,400

大口の子会社
配当
(+1,450)
⇒連結消去

SMBC以外の主要グループ会社

(左: 24年度上期実績、右: 前年同期比)

(億円)	SMBC日興 ^{*1}	SMCC ^{*2}	SMBC信託
業務粗利益	2,721 +564	4,006 +109	328 ▲27
経費	▲2,156 ▲249	▲2,735 ▲41	▲208 ▲11
業務純益	565 +315	1,229 +150	119 ▲38
当期純利益	546 +278	▲556 ▲816 ^{*3}	88 ▲36

(持分法適用)

	三井住友DS ^{*4}	50%	SMFL ^{*5}	50%
業務粗利益	235 +36		1,520 +117	
経費	▲171 ▲8		▲651 ▲40	
業務純益	64 +29		946 +103	
当期純利益	27 +10		553 +131	

*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース *2 SMBCCFの計数を含む

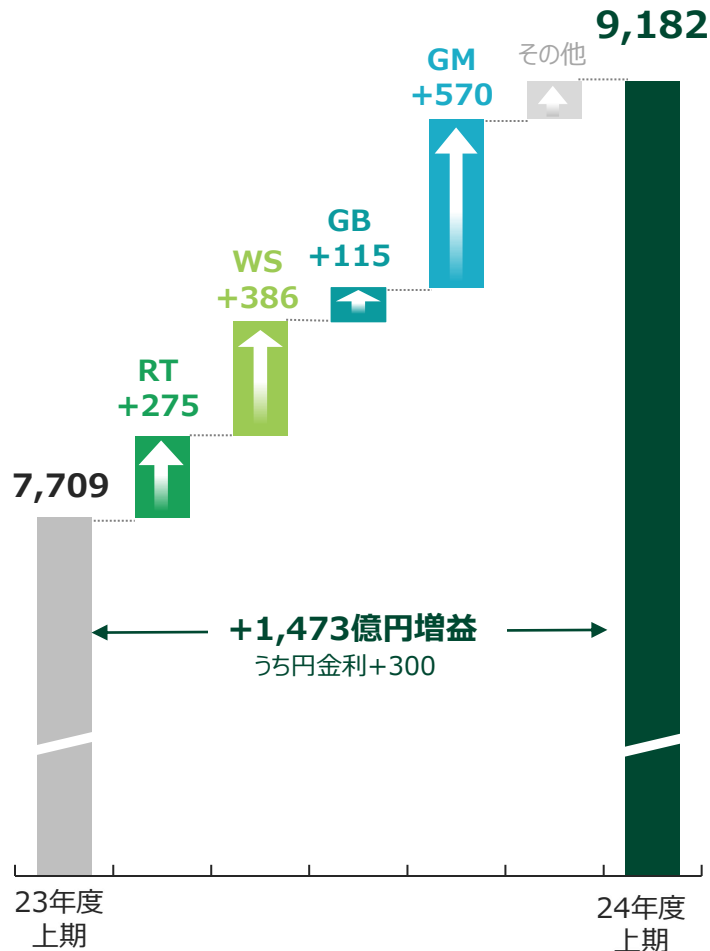
*3 過払債務の抜本的処理影響▲880億円を含む *4 SMBCグローバル・インベストメント&コンサルティングの計数を含む

*5 内部管理ベース

連結業務純益／親会社株主純利益の内訳

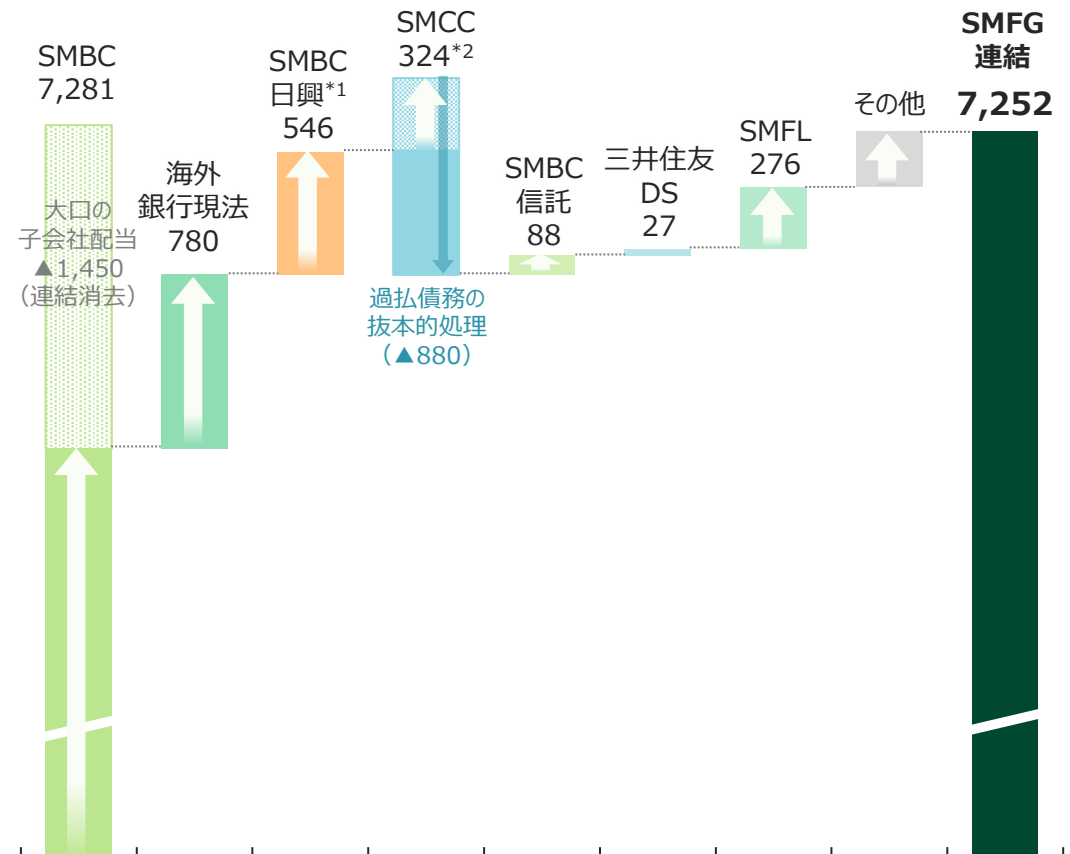
連結業務純益（前年比）

(億円)



親会社株主純利益（エンティティ別）

(億円)



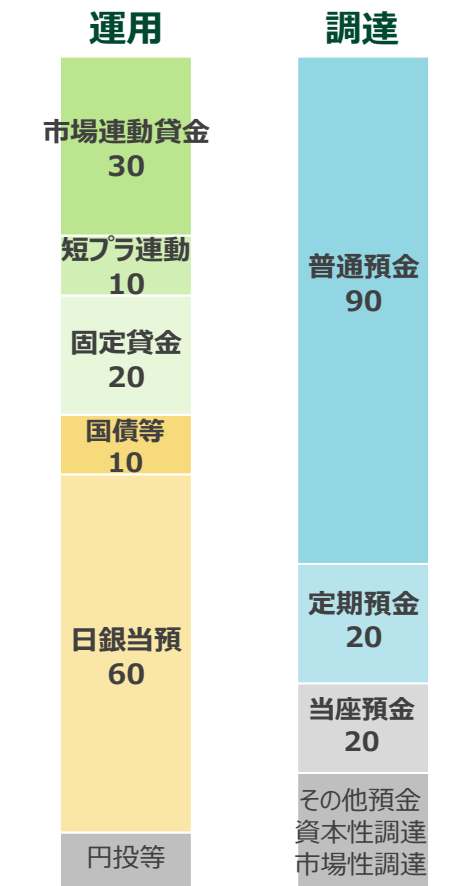
*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース

*2 SMBCCFの計数を含む (過払債務の抜本的処理影響を除く)

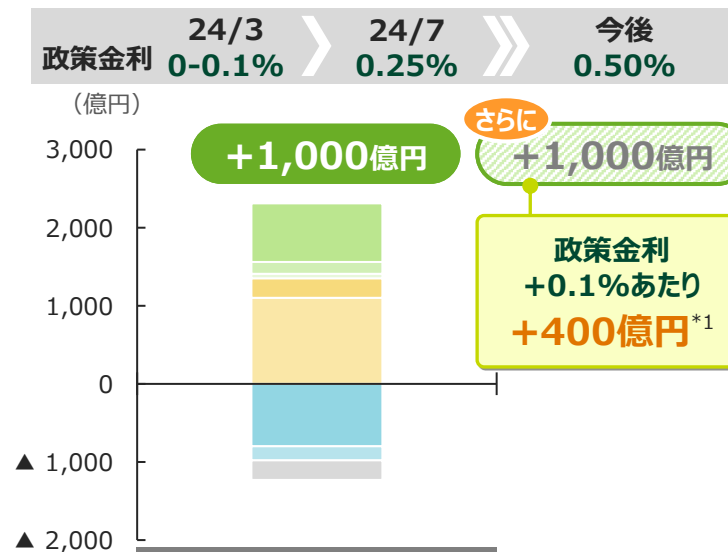
2回の政策金利引き上げにより、資金利益は1,000億円増加（うち、24年度は+700億円）
政策金利が0.50%となった場合は、さらに+1,000億円／年の増収効果を見込む

円貨B/S 145兆円（24/9末）

（兆円）



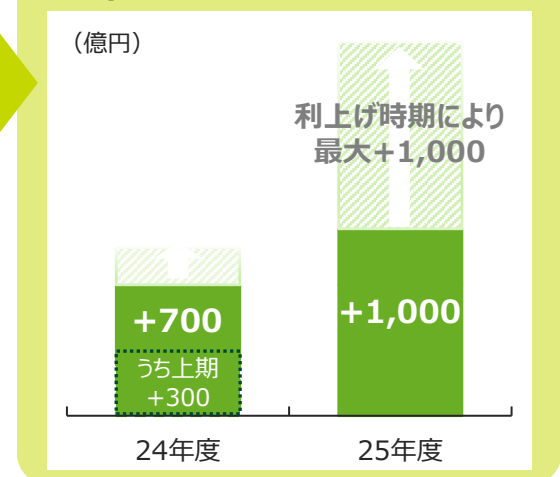
資金利益への影響（バランスシート不変の前提）



試算の前提

市場連動貸金	+25bps
短プラ連動	+15bps
固定貸金	+15bps
国債	+25bps
日銀当預付利	すべて25bps
普通預金	+10bps
定期預金	+10bps

利益の計上時期イメージ



採算性向上に向けた取組

貸出	● ベースレートの上昇に加えスプレッドも前年比改善、引続き引上げに注力
国債等	● 市場のトレンドを適切に捉え、機動的に残高をコントロール
預金	● 粘着性の高い低コストの流動性預金の獲得でアップサイドを追求 Olive：預金量30%増*2

*1 長期・短期金利ともに+10bpsずつ上昇の想定

*2 Oliveリリース前後（22/3-23/2月、23/3-24/2月）の新規口座開設者の翌9月末預金残高の比較

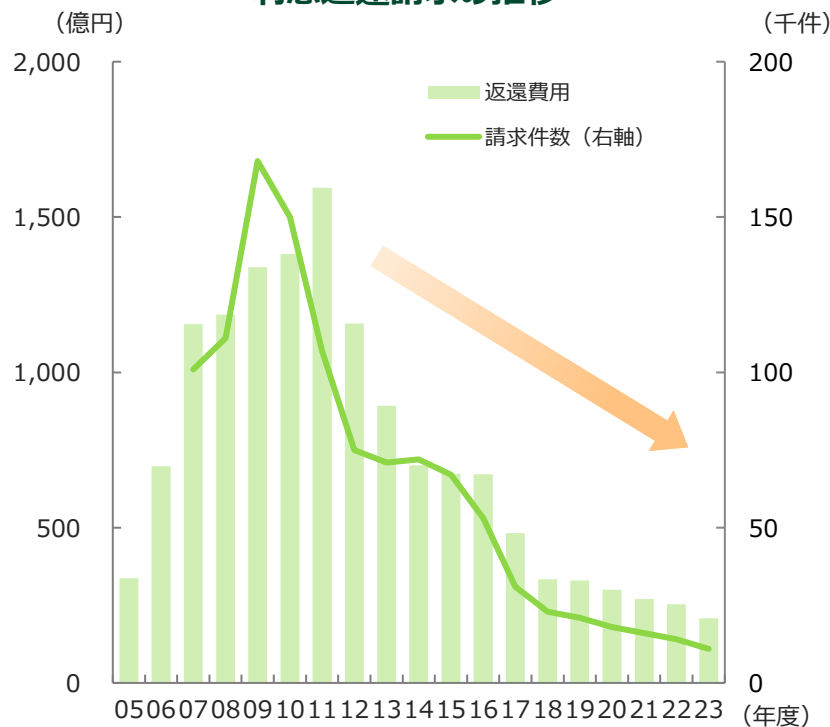
過払債務の抜本的処理

SMBCCFの過払債務に対し、利息返還引当金を一括計上（税前▲990億円）
業績ボラティリティを軽減し、積極的なデジタル投資を通じたビジネスモデルの転換を図る

過払い請求の減少

- 返還や時効が進み、
過払い利息の返還請求は件数・金額ともに大幅に減少

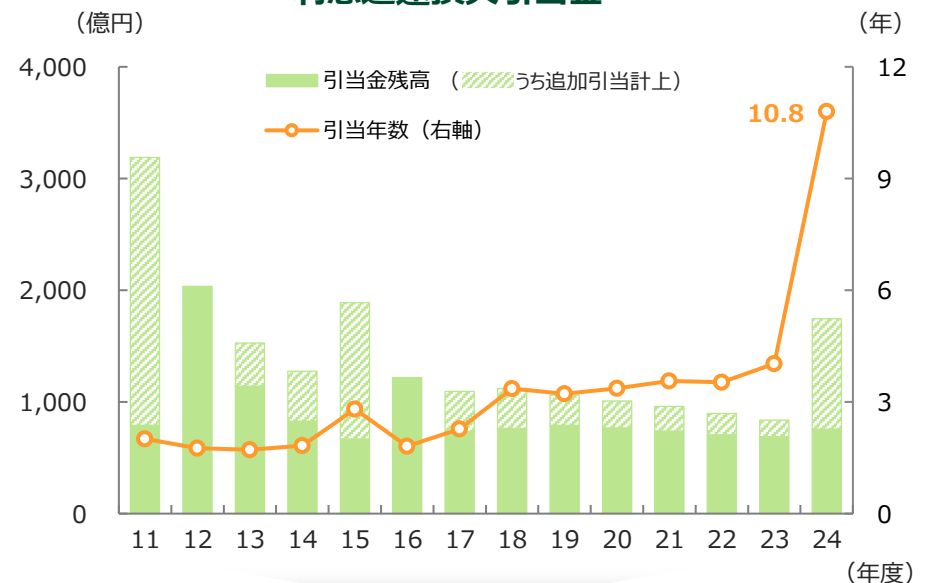
利息返還請求の推移



利息返還引当金を一括計上

- 連結ベースでは、24年度の利益上振れで吸収
- 一括計上後の引当年数は10年超

利息返還損失引当金



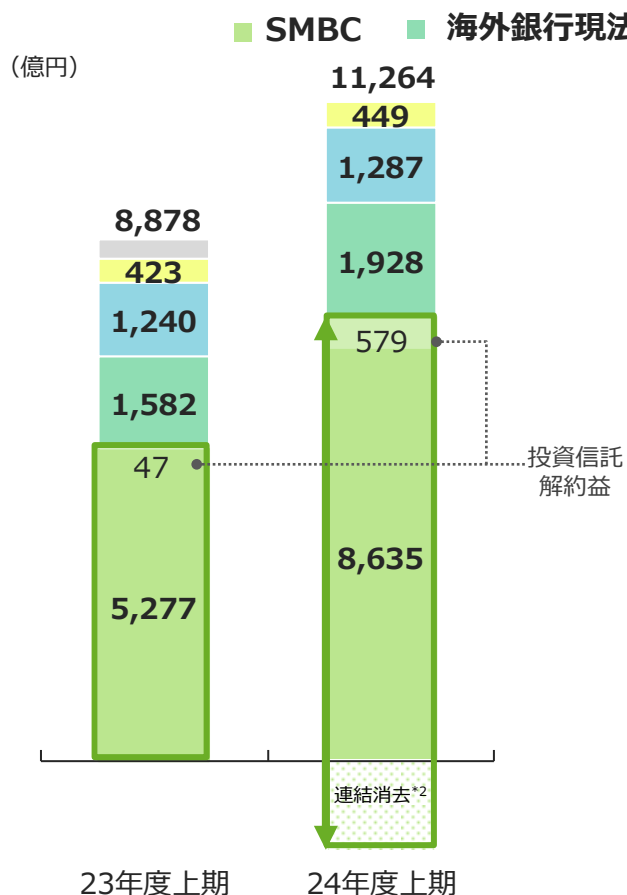
業績ボラティリティの軽減

デジタル投資を通じた
ビジネスモデル転換

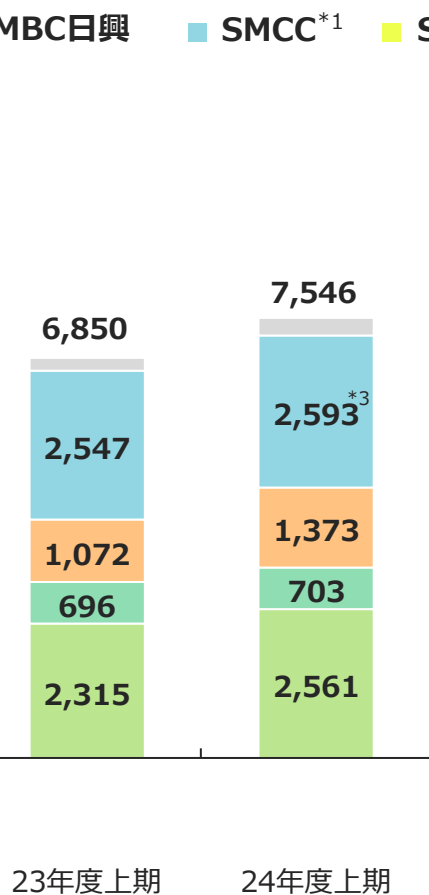
資金利益は、国内外の貸金収益が残高増加・利回り改善により増益

役務取引等利益は、資産運用ビジネスやローン関連手数料を中心に好調で、SMBC・SMBC日興が牽引

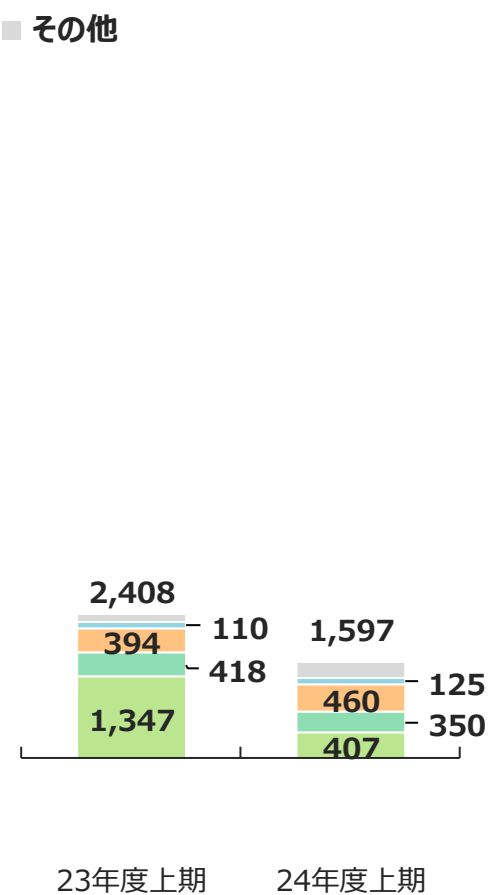
資金利益



役務取引等利益



特定取引+その他業務利益

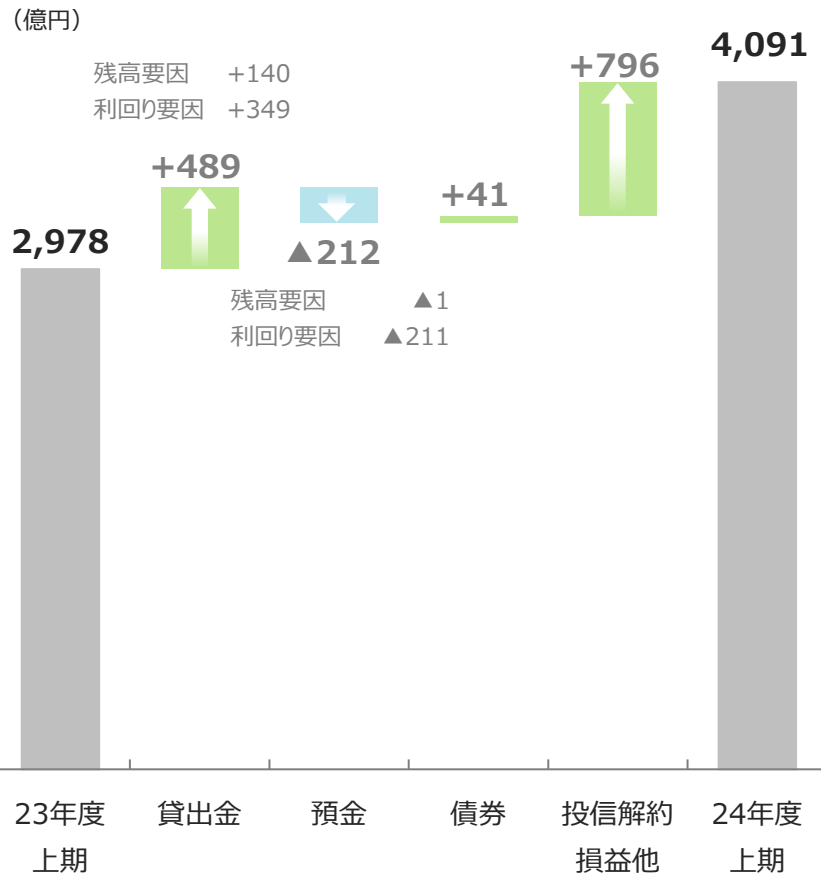


*1 SMBCCFの計数を含む *2 一過性の子会社配当（1,450億円）を含む
*3 集計方法の変更により140億円減少影響あり

(参考) 資金利益の増減要因 (BC単体)

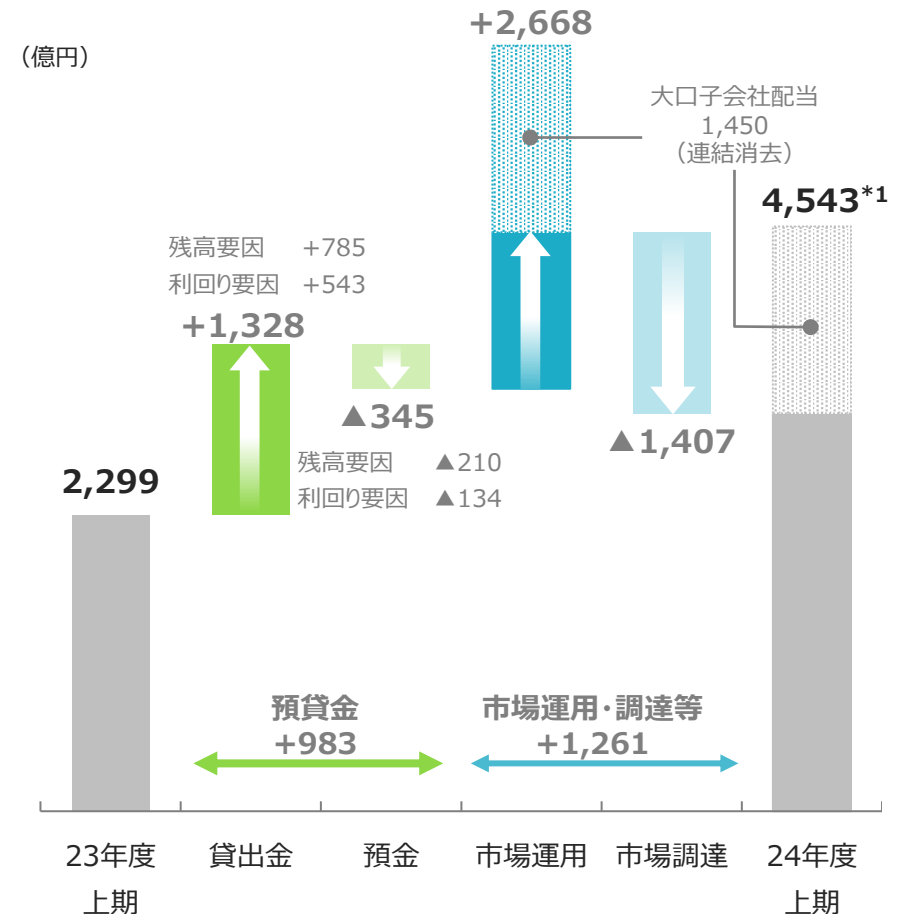
国内

- 市場金利上昇を主因に預金コストの増加はあるも、貸出金の残高増加・利回り改善により、預貸金収益はプラス
- 好調な株価を背景に、投資信託解約益も増加



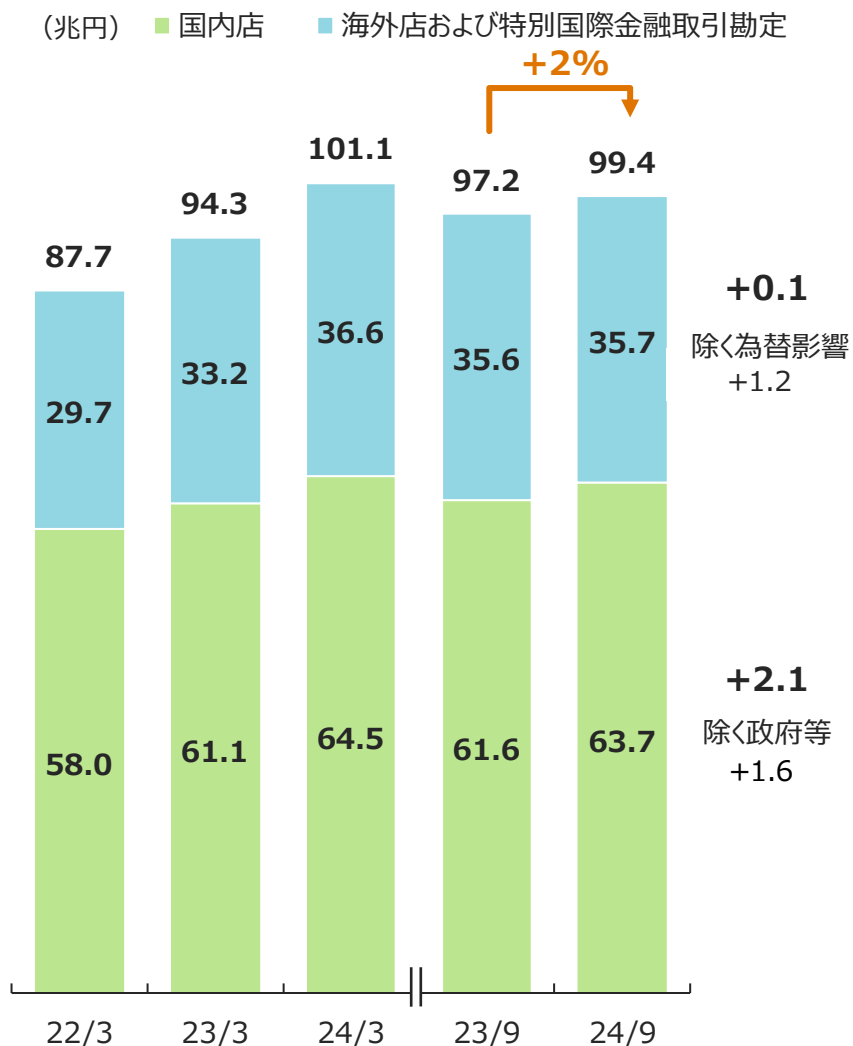
海外

- 預金コストも増加したものの、貸出金の残高増加・利回り改善によって預貸金収益はプラス



*1一過性の子会社配当 (1,450億円) を含む

貸出金残高



国内預貸金利回差

(%)	24年度 上期	前年 同期比	1Q	2Q
貸出金利回	0.94	+0.12	0.92	0.97
預金等利回	0.03	▲0.03	0.01	0.05
預貸金利回差	0.91	+0.09	0.91	0.92

(参考) 政府等向け貸出金控除後

貸出金利回	0.97	+0.13	0.94	0.99
預貸金利回差	0.94	+0.10	0.93	0.94

期中平均貸出金残高・スプレッド*2

	平均残高 (兆円)		スプレッド (%)	
	24年度 上期	前年 同期比*4	24年度 上期	前年 同期比
国内貸出	61.8	+2.3	0.70	+0.01
除く政府等・SMFG向け	58.8	+1.8	0.73	+0.02
うち大企業	21.9	+1.3	0.60	+0.04
中堅・中小企業	21.9	+0.9	0.65	+0.02
個人	12.1	+0.3	1.21	▲0.03
GB運用資産 (億ドル) *3	3,464	+44	1.25	+0.02

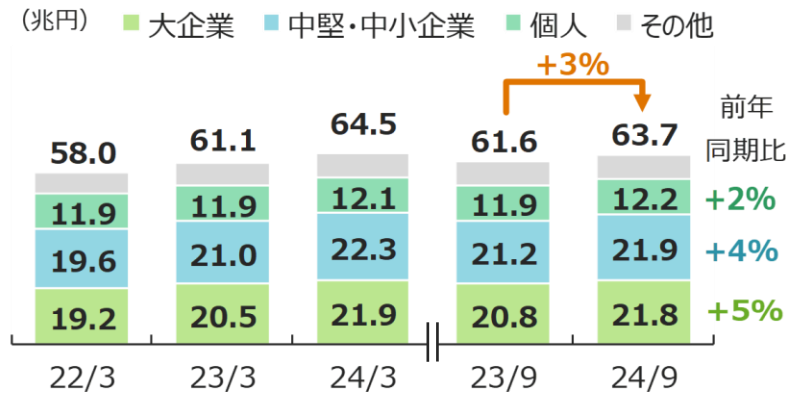
*1 BC単体 *2 内部管理ベース

*3 SMBC、主要現地法人、SMBC信託等の合算。貸出金・貿易手形・有価証券の合計。資金コスト対比のスプレッドを記載

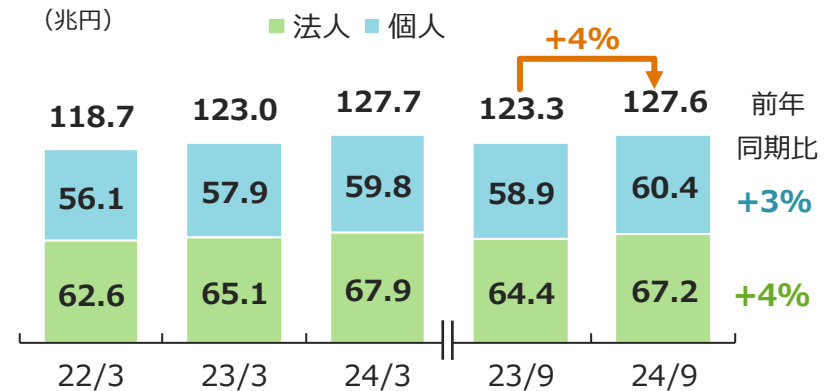
*4 為替影響等調整後ベース

コーポレートアクションは引き続き活発で、大企業を中心に国内貸出金は前年同期比増加
採算性にもこだわった業務運営で、大口M&A貸金の返済等の低下要因はあるも、貸出金スプレッドは維持

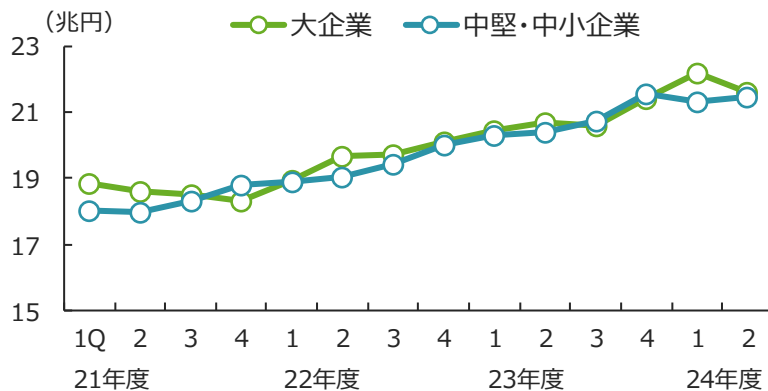
貸出金残高*2



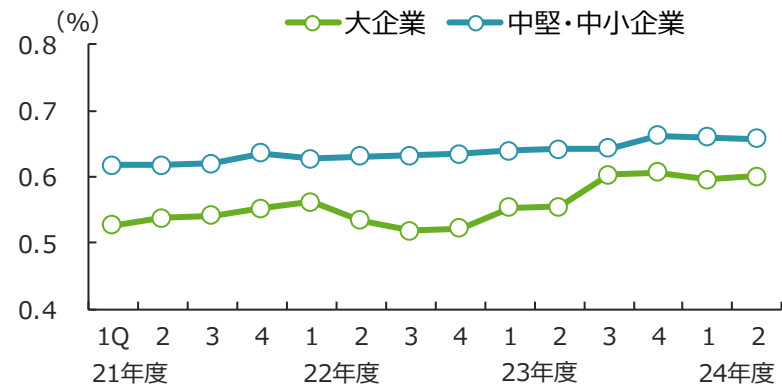
預金残高



法人向け平均貸出金残高*2,3



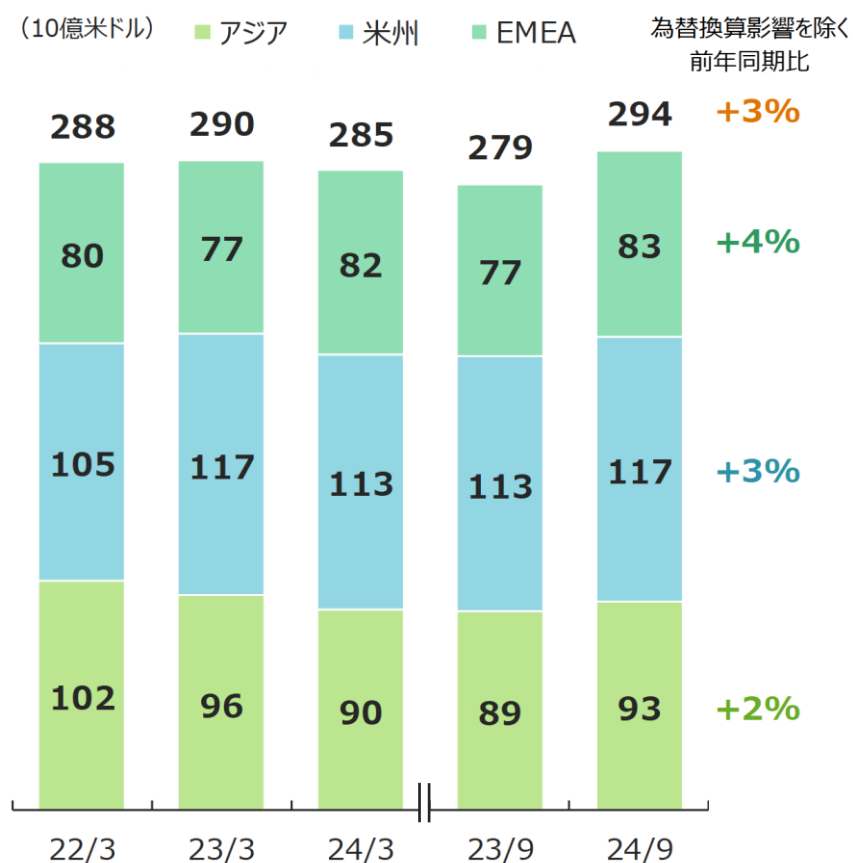
法人向け貸出金スプレッド*2,4



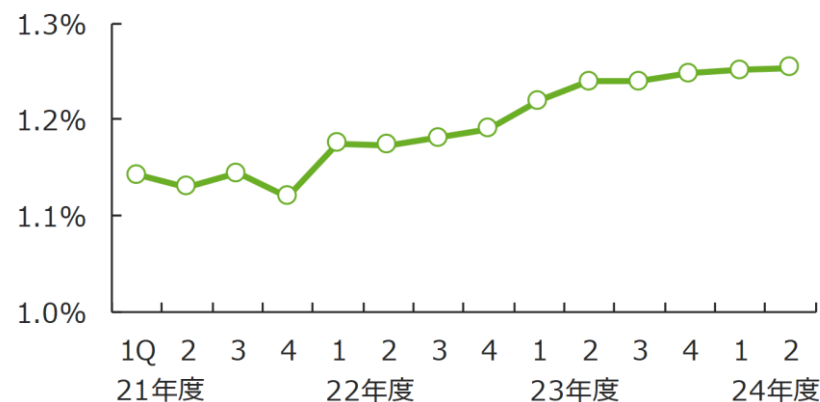
*1 BC単体 *2 内部管理ベース *3 四半期平残、政府向け等を除く。中堅・中小企業はエリア企業向けを除く
*4 ストックベース、政府向け等を除く

金利低下に伴う借入ニーズの増加を主因に、各地域で貸出金残高が回復
低採算アセット削減と選別的な新規取組を通じたROE重視の運営によって貸出金スプレッドの改善は継続

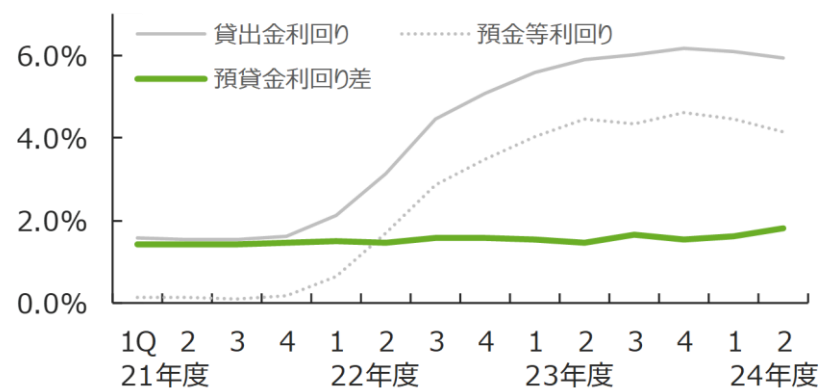
貸出金残高



貸出金スプレッド*2

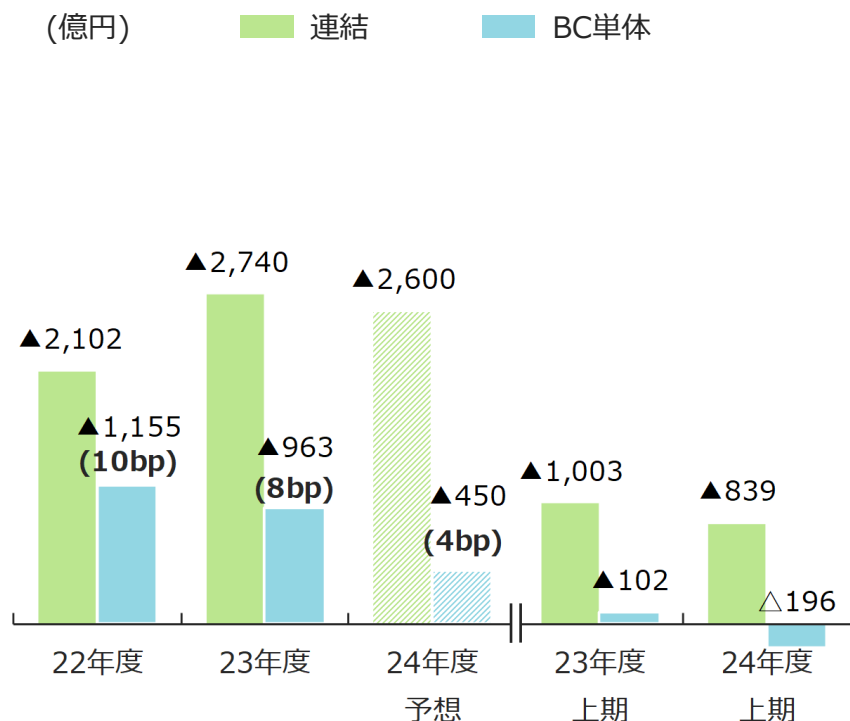


預貸金利回り差



*1 内部管理ベース。SMBCと主要現地法人の合算 *2 ストックベース

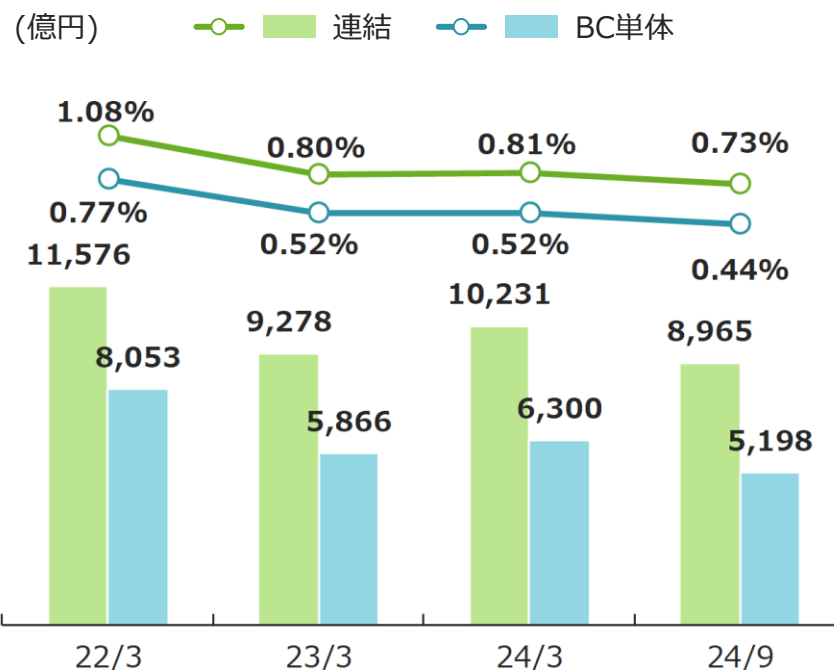
与信関係費用



連単差の主な内訳 (概数)

(億円)	24年度上期	前年同期比
SMCC	▲ 700	▲ 10
うちSMBCCF	▲ 420	△ 10
海外銀行現法	▲ 270	▲ 180
SMICC	▲ 120	△ 0

不良債権比率*1・残高



総与信末残

	(兆円)		
連結	116	126	124
BC単体	113	120	117
その他要注意先 (除く要管理債権)			
BC単体	1.8	1.8	1.7

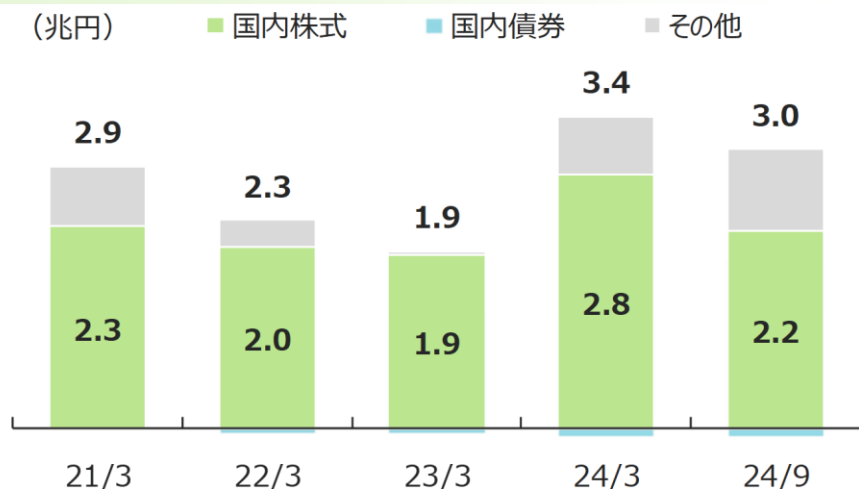
*1 不良債権比率 = 銀行法及び再生法に基づく債権残高 (除く正常債権) / 総与信

■ その他有価証券の内訳（連結）

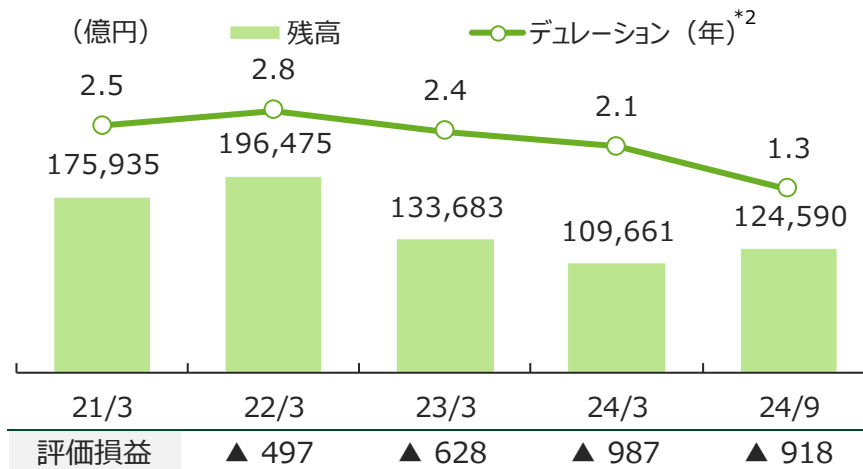
(億円)	残高		評価損益	
	24/9末	24/3末比	24/9末	24/3末比
満期保有目的	2,594	+253	▲ 24	▲ 10
その他有価証券	378,241	+16,913	30,295	▲ 3,636
国内株式	33,982	▲ 7,216	22,103	▲ 6,268
国内債券	122,503	+14,899	▲ 935	+67
うち 国債	93,027	+17,553	▲ 442	+106
その他	221,756	+9,230	9,127* ¹	+2,565
うち 外債	176,076	+7,713	▲ 4,024	+2,882

ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール

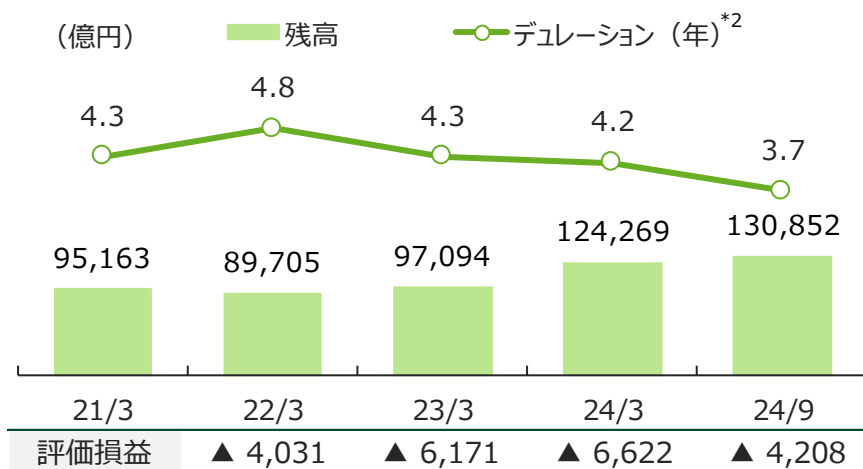
■ 評価損益の推移



■ 円債（BC単体）



■ 外債（BC単体）



*1 外国債券との差額は外国株式等

*2 内部管理ベース。ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債含まず

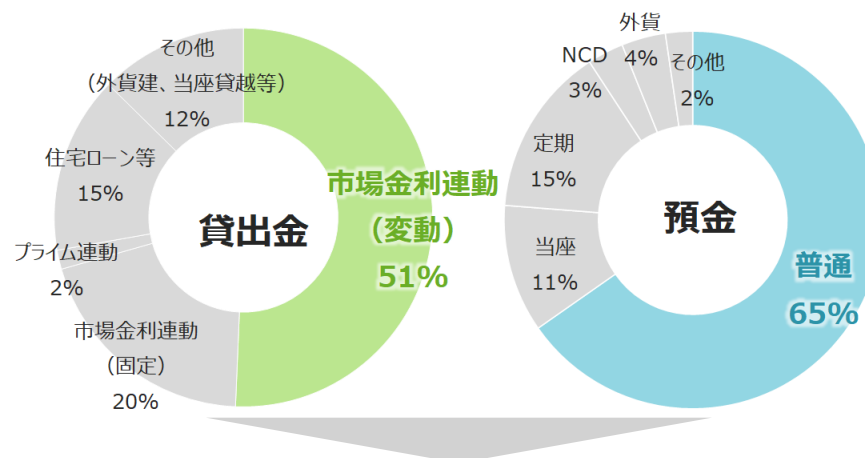
連結B/S

() 内は24/3末比

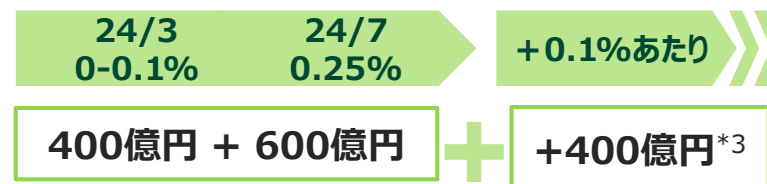
貸出金 105.0兆円 (▲2.0兆円) 国内貸出金*1 63.7兆円	預金 176.9兆円 (▲2.6兆円) 預貸率 59.4% 国内預金*1 127.6兆円 譲渡性預金 (NCD) 13.3兆円
有価証券 38.8兆円 (+1.7兆円) 国債 9.3兆円 外国債券 17.6兆円	その他 146.2兆円 (▲4.9兆円) 現預金 73.6兆円 日銀当座預金*1 57.5兆円
純資産 14.9兆円 (+0.1兆円)	その他 98.3兆円 (▲2.7兆円)

総資産 290.0兆円 (▲5.2兆円)

預貸金の構成比 (BC単体) *2



円金利の上昇による資金利益影響 (B/S不変前提)



試算の前提

市場連動貸金	+25bps	長期・短期金利 ともに+10bpsずつ上昇
短プラ連動	+15bps	
固定貸金	+15bps	
国債	+25bps	
日銀当預付利	すべて25bps	
普通預金	+10bps	
定期預金	+10bps	

*1 BC単体 *2 内部管理ベース *3 一定の仮定に基づいた試算。市場環境により変動

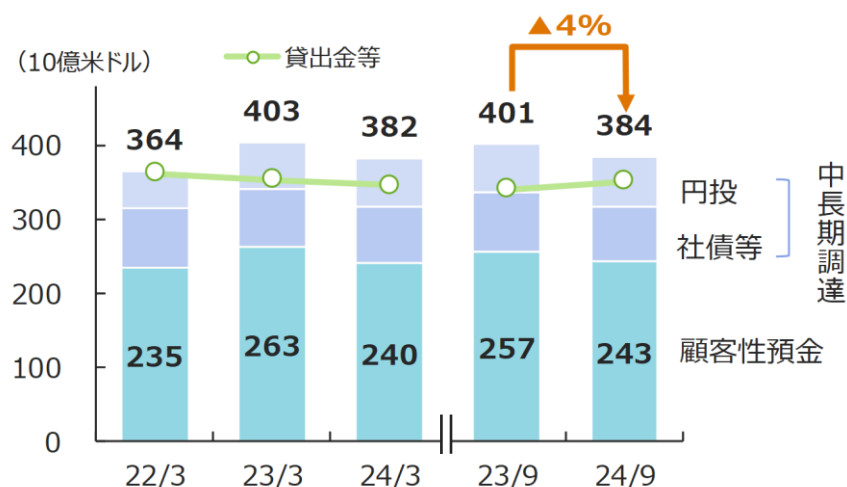
外貨B/S *1,2

(10億米ドル、()内は24/3末比)

貸出金	顧客性預金 (含む中銀預金)
351 (+6)	243 (+3)
その他	中長期調達 (社債、円投等)
128 (▲10)	141 (▲1)
外債、NCD	CD/CP
87 (+3)	75 (▲7)
	インターバンク (含むレポ)
	107 (+4)

資産・負債 566 (▲1)

外貨ファンディング



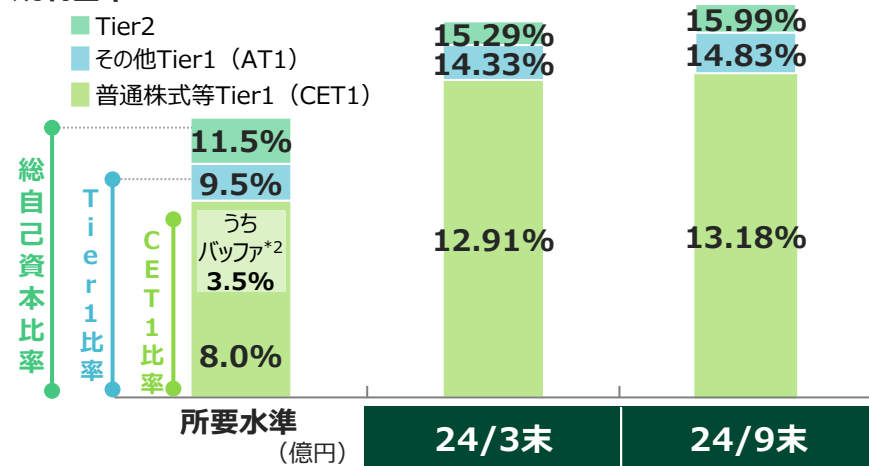
(参考) 外貨金利の変動影響

預貸金

- 貸出金・預金とも、大宗は基準金利連動
- 一部、金利感応度の低い流動性預金によって外貨金利±1.0%で資金利益±200億円

自己資本比率(規制基準)^{*1}

規制基準



所要水準 (億円)	24/3末	24/9末
総自己資本	141,979	144,772
Tier1資本	133,116	134,209
うちCET1資本	119,926	119,303
Tier2資本	8,863	10,563
リスクアセット	928,486	904,909

バーゼルⅢ最終化基準

CET1比率	10.9%	11.2%
除くOCI	9.9%	10.3%
CET1資本 ^{*3} (兆円)	10.2	10.3
リスクアセット ^{*3} (兆円)	102.3	99.2

その他の規制比率

	24/9末	所要水準
外部TLAC比率		
リスクアセットベース	24.56%	18.0%
レバレッジエクスポージャーベース	10.39%	7.10%
レバレッジ比率	5.46%	3.7%
LCR (24年度2Q平均)	133.6%	100%

*1 バーゼルⅢ最終化は24/3末より段階適用開始。29/3末に完全実施される予定

*2 資本保全バッファ-2.5%+G-SIBsバッファ-1.0%。カウンターシクリカルバッファ (CCyB) は勘案せず

*3 バーゼルⅢ最終化・除くOCI

事業部門別実績①

■ リテール

- 好調な各ビジネスラインと金利上昇に伴う預金収益増加により業務粗利益・業務純益ともに増益、経費率は低下
- 過払債務の抜本的処理を除いた当期純利益は増益で、ROCET1も改善

(億円)	24年度 上期	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	6,684	+633
預貸金収益 ^{*2}	660	+104
資産運用ビジネス	1,657	+205
決済ビジネス	2,688	+183
コンシューマーファイナンス	1,498	+87
経費	▲ 5,418	▲ 347
経費率	81.1%	△1.6%
ベース経費	▲ 3,661	△ 3
業務純益	1,288	+275
与信関係費用	▲ 701	▲ 11
当期純利益	▲ 517	▲ 749
過払影響除く	363	+131
ROCET1 ^{*3}	6.1%	+1.8%
リスクアセット (兆円)	12.9	+0.7

■ ホールセール

- 貸出金増加・預貸金利回り差改善により預貸金収益が増加、証券ビジネスも好調で、業務粗利益・業務純益ともに増益
- 加えて、政策保有株式の売却益もあり当期純利益は大幅増益、ROCET1も大幅に向上

(億円)	24年度 上期	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	4,412	+472
預貸金収益	1,976	+340
外為・為替手数料	697	+28
SMBC シンジケーション	264	+54
ストラクチャードファイナンス	179	▲ 59
不動産ファイナンス	78	+7
証券	433	+136
経費	▲ 1,631	▲ 140
経費率	37.0%	△0.8%
ベース経費	▲ 1,473	▲ 54
業務純益	3,382	+386
与信関係費用	△ 102	△ 159
株式等損益	2,528	+1,996
当期純利益	4,280	+1,791
ROCET1	23.5%	+9.8%
リスクアセット (兆円)	34.7	△0.2

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後） *2 コンシューマーファイナンスを除く *3 過払債務の抜本的処理影響を除く

■ グローバル

- 利ざや改善と残高増加に伴う預貸金収益の増加や、ローン関連手数料増加により、業務粗利益・業務純益ともに増益
- 経費は増加傾向が続き、与信費用もOTO/SOF連結化等により増加しており、当期純利益は減益・ROCET1も低下

(億円)	24年度 上期	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	6,439	+394
預貸金収益	3,201	+140
ローン関連手数料	1,195	+182
証券	402	+57
経費	▲ 4,262	▲ 396
経費率	66.2%	▲2.2%
ベース経費	▲ 4,182	▲ 382
持分法投資損益	299	+88
業務純益	2,623	+115
与信関係費用	▲ 492	▲ 220
当期純利益	1,555	▲ 50

ROCET1	6.6%	▲0.4%
リスクアセット (兆円)	48.9	+1.0

■ 市場

- 相場急変時の臨機応変なポートフォリオ運営も奏功し、着実にバンキング収益を積み上げ
- S&Tビジネスも、顧客フローを捉えて好調に推移

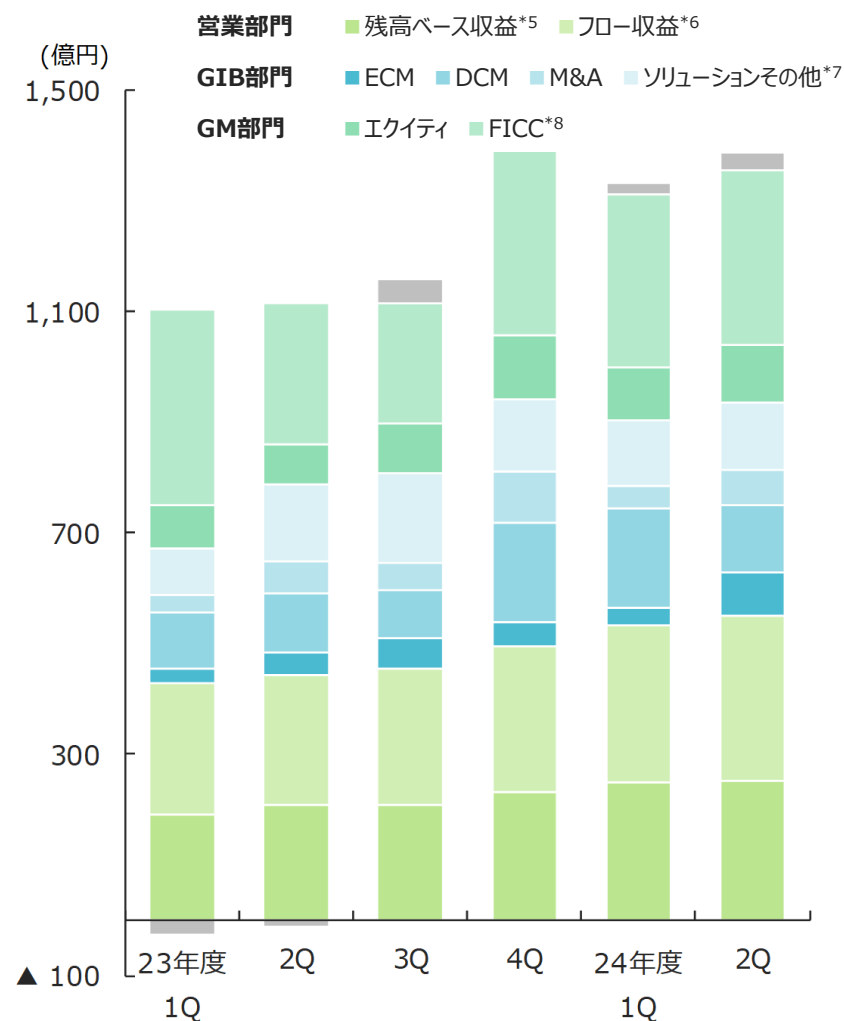
(億円)	24年度 上期	前年 同期比 ^{*1}
業務粗利益	3,626	+677
SMBC	2,370	+470
SMBC日興	836	+90
経費	▲ 939	▲ 117
経費率	25.9%	△2.0%
ベース経費	▲ 557	▲ 42
業務純益	2,855	+570
当期純利益	1,984	+385

ROCET1 ^{*2}	25.4%	+3.4%
リスクアセット (兆円)	7.0	+0.1

業績

(億円)	23年度	24年度 上期	前年 同期比
純営業収益	4,735	2,720	+536
販売費・一般管理費	▲4,019	▲2,155	▲223
営業利益	716	565	+313
うち営業部門	101	153	+122
GIB部門*2	218	132	+97
GM部門*3	455	273	+11
経常利益	802	582	+315
当期純利益	576	546	+359
預り資産残高*4 (兆円)	82.7	80.4	

純営業収益



*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsなどの利益を含む内部管理ベース

*2 グローバル・インベストメント・バンキング部門 *3 グローバル・マーケット部門 *4 SMBC日興単体

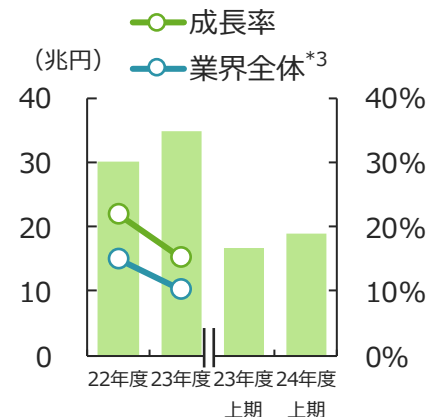
*5 投資信託・保険の代行手数料、FW報酬等 *6 株式委託手数料等

*7 バランスシートやデリバティブを活用したソリューションビジネス等 *8 Fixed Income, Currency and Commodities

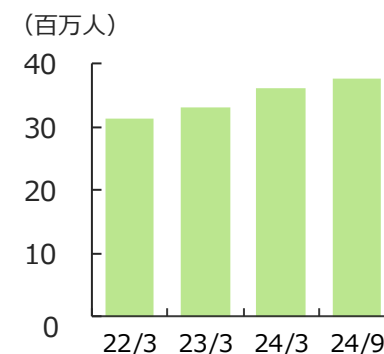
業績

(億円)	23年度	24年度 上期	前年 同期比
営業収益	9,017	4,704	+330
うち買物手数料	2,284	1,245	+152
ファイナンス	3,064	1,608	+103
うちSMBCCF	1,470	772	+50
信販・収納代行	811	410	▲2
信用保証収益	774	410	+30
営業費用	▲7,858	▲5,152	▲1,306
うち貸倒費用	▲1,098	▲742	▲18
うちSMBCCF	▲540	▲459	△3
利息返還費用	▲230	▲990	▲990
債務保証費用	▲160	▲31	△4
経常利益	576	▲481	▲71
うち営業外収益	12	23	+15
営業外費用	▲595	▲56	△84
親会社株主純利益	212	▲88 ^{*1}	▲350
不良債権残高^{*2}	989	1,042	
(同比率)	10.04%	10.21%	
利息返還損失引当金^{*2}	837	1,746	
(引当年数)	4.0年	10.8年	

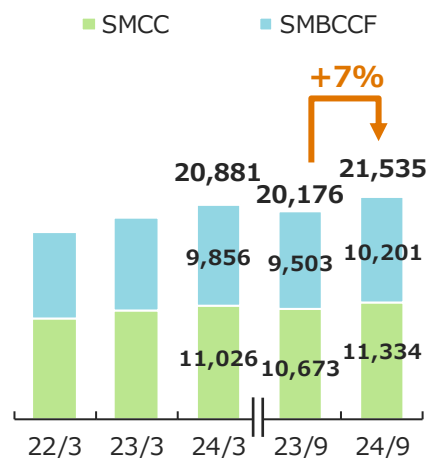
買物取扱高



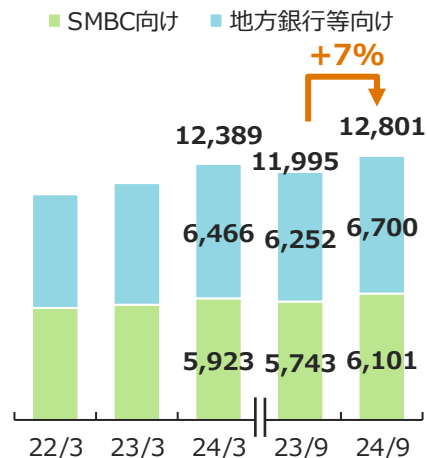
会員数



ファイナンス残高^{*4}



保証残高^{*2}



*1 SMBCFSとの合併に係る抱合せ株式消滅差益+466億円 (FG連結上は消去)、過払債務の抜本的処理影響▲880億円を除いて326億円 *2 SMBCCFのみ

*3 日本クレジット協会「クレジットカード動態調査」ショッピング信用供与額 *4 SMBCモビット再編影響を遡及反映